



## 贈ることば

関西大学学長 大西昭男

ご卒業おめでとう  
ここに晴れの卒業の日をお迎えになった諸君一人ひとりに心からのお祝いを申しあげたい。  
今日という日は、しかしながら、きびしい旅立ちの日でもあります。ここに、三十年來、こんななきびしい状況にある社会へと巣立っていった先輩はいません。いま、日本も世界全体も、いわば文字通り海図なき航海に船出したままの状況です。諸君の頼みとしうるのは、いわば諸君の内なる羅針盤だけです。それは、ある人にとっては少年少女時代以来の

何か茫漠とした夢でありましょう。あるいは鬱勃たる志でありましょう。あるいはしつかりとここ数年のうちに組み立てられた人生設計でありましょう。そしていかにせん、おそらくはその夢、志、人生設計を直ちになかえてくれそうな進路が、いま保証されているとは言えないではありませんか。  
「いや、いつかはこの夢を実現してみせよう」と昂然と顔を上げている人が必ずや多数の中におられることと信じたい。  
そこで、諸君よりも、「二日の長」ある故を以て諸君の先輩たる私から、さしあたっての助言を一つ差し上げたい。  
諸君が、どんな不本意な職場のどんなに不本意な任務に従っている時にも、あるいは、どんなにやり甲斐ある仕事に従事している時にも、その仕事とそれを取り巻く状況をできるだけ幅広く視野におさめておくこと。自分のしていることが、その時その場では絶対至上のことであろうとも、たとい視野の片隅にでも、その絶対を取り巻く相対的状况を漠然としてあるにせよ把握しておくこと。  
どんなに面白いことにも、楽しいことにも、そしてどんなにつらいことにも、のつびきならぬことにも、のめりこんでしまっってはいけない。ひきつってしまっってはいけない。  
ヒトラー独裁下にあっても、スターリン專制の下にあっても、ドイツ国民、あるいは、ソビエト連邦人民すべての精神がひきつってしまっていたわけではあるまい。では、それだけの人がゆとりをもって、人間らしく考えることができているかというところが問題なのである。

大へんむずかしいことではあるが、どんな時代の、どんな組織体の、どんな状況の下に身をおこうとも、どうか人間らしいゆとりを持ちつつけていただきたい、ということをお祈りして望んでおきたい。  
関西大学は、自由闊達な大学だとよく言われる。私もそう思い信じている。関大生には、また関大OBには、よくも悪くもいつもゆとりがある。そのゆとりをよい意味で大事にしていていただきたい。そして、ここぞという時に力を発揮してもらいたい。  
どうか関大大人らしく、ゆったりとした幅のある人生を生きていていただきたい。

千里眼  
大学時代の友人に結婚式のスピーチを頼まれ久しぶりに大学の頃を思い出してみた。そしてその結果、学生さんを見る目が優しくなった

▼いま落ち着いて考えてみると、大学生の頃は現実を直視するのが怖かったのではないかと気がする。怖いものから逃げれば逃げるほどその恐怖感は大きくなるので勇気をもって直視しなければならぬと言っただけで、行っただけでは難しいのである。今でも昔ほどではないにしろ、怖い▼このようなことを考えていてふと「なまいきチャルロット」という映画を思い出した。私の解釈では、この作品は(ミニスカートのよく似合う)少女が、非凡なピアニストの友達になることで現実から逃げようとして傷つき、現実を受け入れるまでの姿を描いたものである。また「アポロ11への道」というドラマを思い出した。スペリング大会に出場する少年がおまじないを必要としなくなる過程をうまく描いていた▼大人になるといふことは、現実から逃れるために人や物に依存することを可能な限り抑えることではないだろうか。他人や物に依存することで自分を鍛えることを忘れないように注意したい。そうしなければ私のような人間は生き残れない。(A・M)

### HEADLINE

- 2 面 平成五年度の卒業式
- 3 面 卒業する皆さんに
- 4・5 面 特集「私の学生生活」
- 6・7 面 大学を去るに当たって
- 8 面 関大フォーラム

平成5年度

卒業式を挙げる

新学士 5038人 巣立つ

四年間の出来事



遼寧大学の先生を迎える守谷ゼミ

平成五年度卒業式は三月十九日(土)に挙行され、五千三十八人の新学士が誕生する。...

忘れ得ぬ人、その名は雄さん

— 木村雄二郎先生を偲ぶ —

守谷 基明

私情に於ては、私に先立って木村先生は何かと、私に思い出を思い出されてくる。...



彦根城をバックにありし日の藤井先生(右端)

藤井啓行教授を悼む

丸山 三友

二月二十四日、文学部ドマニイストを捉えておられ、入院中の名古風、世界され、...



卒業後も国家試験等の受験 関税専門員、労働基準監督官、(弁)弁理士、(司)司法書士...

資格試験をめざす人に

①試験費用 ②受験料 ③登録料 ④講習料 ⑤検定料 ⑥資格料 ⑦会費...

卒業しても利用しよう



勉強が必要とされることは間違いなく、また、いわゆる「生涯学習」の過程で、自己の人格をより大きく豊かに形成して、...

卒業するに 卒業皆さんに



後輩の就職指導を

卒業おめでとうといひたい。今年も多くの皆さんが社会へ旅立された。...



生涯、母校との架け橋

「てびき」読んで計画的に

卒業おめでとうといひたい。卒業後、母校と架け橋を築く。...

学位取得

大阪大学博士(文学) 敬田 一(国語と日本文学) 学位授与年月日は平成五年六月十五日。

故藤井啓行教授

故木村雄二郎教授 名譽教授の称号授与 去る二月一日、二十四日...

学舎棟など竣工式

高槻キャンパスの「総合情報学部」 G棟(体育館)において挙行政式が、三月十五日(火)...

キャリア情報

総合情報学部舎棟等の竣工式が、三月十五日(火)午前十時から高槻キャンパス...

女子3年次生を対象に 就職合宿セミナー

高岳館で2回に分けて

平成五年度の就職状況は、長引く不況の中、学生諸君に意欲を持って就職活動をすすめていただくことが必要です。

電気学会 優秀論文発表賞

工学研究科院生ら二人

平成五年度電気学会全国大会において工学研究科の院生が発表した論文が優秀論文発表賞を授与され、賞状と賞牌を授けられた。

ABTEC学術講演奨励賞も

平成五年度盛岡加工学会学術講演会(ABTEC'93)において講演した工学研究科の院生・車生活君に対して「ABTEC学術講演奨励賞」が指導教授の工学部北嶋弘一助教授と共授与された。

Table with columns: 種別, 賞額, 貸付総額, 返還総額, 返還年賦額, 最終返還年賦額, 返還年数. Contains data for national and university scholarship loans.

### 司法試験への挑戦

黒田 清行

司法試験への挑戦だった。入学から六年余りの歳月を経て、司法試験の合格を期す。司法試験合格は、司法官としての第一歩。司法試験合格は、司法官としての第一歩。司法試験合格は、司法官としての第一歩。

司法試験合格は、司法官としての第一歩。司法試験合格は、司法官としての第一歩。司法試験合格は、司法官としての第一歩。



キャンパスでくつろぐボルドーの学生たち

### ボルドーでの一年

小林 順子

ボルドーは学生の街。フランスの街並みは、どこか懐かしい。ボルドーでの一年は、充実したものであった。

ボルドーでの一年は、充実したものであった。ボルドーでの一年は、充実したものであった。



第1学舎4号館の法廷教室

### 私の就職活動

木倉 玲美

就職活動は自分自身の夢のため。就職活動は自分自身の夢のため。就職活動は自分自身の夢のため。

就職活動は自分自身の夢のため。就職活動は自分自身の夢のため。就職活動は自分自身の夢のため。



就職資料室は求人資料でいっぱい

### 自分らしさを求めて

鳥山 真

平成二年春、この関西大で入学した。自分らしさを求めて、自分らしさを求めて。

自分らしさを求めて、自分らしさを求めて。自分らしさを求めて、自分らしさを求めて。



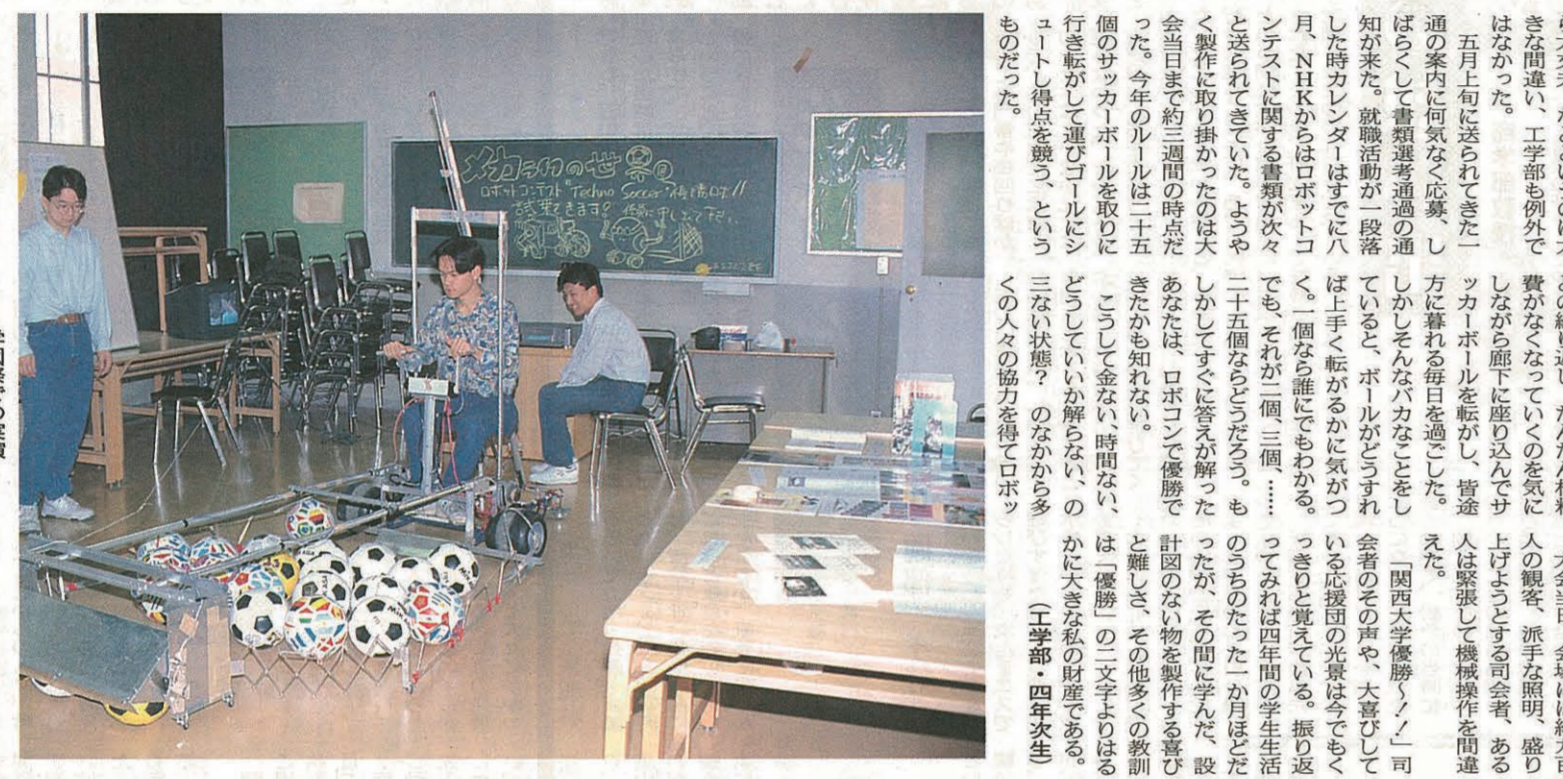
第62回大阪陸上競技選手権大会にて(長居第2競技場)

### 「関西大学優勝〜!!」

馬淵 紀彦

関西大学優勝。馬淵 紀彦のインタビュー。関西大学優勝。馬淵 紀彦のインタビュー。

関西大学優勝。馬淵 紀彦のインタビュー。関西大学優勝。馬淵 紀彦のインタビュー。



学園祭の実演

### 私の学生生活

馬淵 紀彦

私の学生生活。馬淵 紀彦のインタビュー。私の学生生活。馬淵 紀彦のインタビュー。

私の学生生活。馬淵 紀彦のインタビュー。私の学生生活。馬淵 紀彦のインタビュー。

### 関西大学での留学について思うこと

ビグヤット・グナワン

関西大学での留学について思うこと。ビグヤット・グナワンのインタビュー。関西大学での留学について思うこと。

関西大学での留学について思うこと。ビグヤット・グナワンのインタビュー。関西大学での留学について思うこと。

電子回路研究室の懇親会で先生を囲んで



### 天六祭に『有終の美』

嵯峨 剛

天六祭に『有終の美』。嵯峨 剛のインタビュー。天六祭に『有終の美』。

天六祭に『有終の美』。嵯峨 剛のインタビュー。天六祭に『有終の美』。



最後の天六祭を色どった応援団の雄姿

この四年間、お世辞にも勉強したとは言えませんが、応援団に所属し、様々な活動を通して、天六祭と共に育ってきました。その一年の思い出として、天六祭を振り返ります。

この四年間、お世辞にも勉強したとは言えませんが、応援団に所属し、様々な活動を通して、天六祭と共に育ってきました。その一年の思い出として、天六祭を振り返ります。

先生が三月三日をもって定年を迎えられ、本学を去られた。様々な事情から定年を迎えられ、本学を去られた。様々な事情から定年を迎えられ、本学を去られた。様々な事情から定年を迎えられ、本学を去られた。

# 大学を去るに当たって

# 大学を去る

先生が三月三日をもって定年を迎えられ、本学を去られた。様々な事情から定年を迎えられ、本学を去られた。様々な事情から定年を迎えられ、本学を去られた。様々な事情から定年を迎えられ、本学を去られた。

### 教職三十六年

興先生を中心とする先生方が才幹を惜んで工学部発展のため理事会との折衝に盡された。たまたま慶応で深く感謝している。

### 工学部創設の頃

手が致れず、原則的に集めておく。事後で検討が必要なら、後で追いついてもらう。その時、文書が揃ってからの進捗は、一応の形式が多く、内容は先に検討されていく。そのうちに、細かい部分が増えていく。その時、文書が揃ってからの進捗は、一応の形式が多く、内容は先に検討されていく。そのうちに、細かい部分が増えていく。

### 新しい出発を

工学部助教授 山田 富貴子

「新しい出発を」といって、新しい出発を。工学部助教授 山田 富貴子

### 光陰矢の如し

工学部助教授 村上 光昭

光陰矢の如し。工学部助教授 村上 光昭

### 花水さんのこと

工学部助教授 岡部 孝好

花水さんのこと。工学部助教授 岡部 孝好

### 紛争の思い出

工学部助教授 東海林 滋

紛争の思い出。工学部助教授 東海林 滋

### 平凡のすゝめ

工学部助教授 前田 弘

平凡のすゝめ。工学部助教授 前田 弘

### 私の大学生生活

工学部助教授 松村 慎巳

私の大学生生活。工学部助教授 松村 慎巳

### 天行ハ健ナリ

工学部助教授 山田 秀明

天行ハ健ナリ。工学部助教授 山田 秀明

### 工学部教授 亀井 清

工学部教授 亀井 清

### 工学部教授 田中 輝夫

工学部教授 田中 輝夫

### 工学部教授 山田 富貴子

工学部教授 山田 富貴子

### 工学部教授 大田 義一

工学部教授 大田 義一

### 工学部教授 岡部 孝好

工学部教授 岡部 孝好

### 工学部教授 東海林 滋

工学部教授 東海林 滋

### 工学部教授 松村 慎巳

工学部教授 松村 慎巳

今ではほとんど使われなくなった産学協同という言葉、「広辞苑」は「技術革新に適用した技術者養成を主目的とする」と説明している。理工系の学部学生構成比をみると、六十年代の高度経済成長期には幾分増加したものの、七十年代に入ると二割五分程度で安定し、学部的主力は一貫して人文・社会系である。ところが、大学院(修士課程)をみると、理工系は急増して七十年代半ばに五割を越え、その後も増加したのに対して、高度成長期まで主力だった人文・社会系は減少を続けた。九十年代には一割となった。つまり、学部は人文・社会系、大学院は理工系が主力である。さらに、大学院の中でも、理工系は国立に、人文・社会系は私立に大きく偏っている。産学協同の結果からも、当初の意図からも、国立の

育理念・内容が厳しく問われ、たが、大学は一般教育と専門教育の有機的統合よりも、分離・対立を内包したまま、改革は進まなかった。その間に、理工系大学院の拡充で応用的能力の養成という社会的要請に対応した。八十年代に情報技術が開花

ているのは単なる応用的能力ではなく、創造力・問題解決能力である。現在のマス型大学が求められているのは多様な柔軟な教育であって、画一的教育ではない。同時に、専門知識に基づき創造力・問題解決能力は形成され得ない。こうした条件下では専門教育と有機的関連をもつ一般教育の確立が不可欠である。一般教育の専門家など存在しないのだから、領域外の専門家による教育が一般教育とならざるを得ない。

また、セメスター制は柔軟性と専門性への途である。これらは学部・大学の個性化を強めよう。大学の改革は社会的要請で、これを拒む大学、特に人文・社会系主体の私学はその輝きを失うであろう。(経済学部教授)

## 大学への社会的要請

元木 久

## 関大フォーラム



## 大学と社会

数を越えている現状からみれば、文系の大学院進学がいかに貧弱か推定できよう。そのうえ、日本の大学院はカリキュラムが古く、時代の変化や社会の要求に対応できなくなっている。欧米の大学院で院生の役割する科目は人間科学、カウンセリング、院活性化突破口にしたいとい

したビジネスマンが、公務員が、地域リーダーが、学校の教員が、サラリーマンが、或いは国籍の違う多様な人びとが、一つの社会の重要な現実的テーマのもとに知的に結集し、啓発しあうリカレント教育の殿堂としての大学院の役割を重視したいのである。大学院は研究者養成のため、多くの人を育てるべきでないという十九世紀の発想を排して、大学を卒業しても真剣に研究をつづけたいという人のライフワークの場として、大学院は解放されるべきであると思う。残念ながら本学はな

## 大学院とリカレント教育

廣田 君美

二十一世紀は大学院の時代だといわれる。学部の改革と選別は今世紀で終了し、二十一世紀は大学院の改革と充実が中心となるというのである。特にわが国は先進国では大学院教育の最も遅れている国であり、思いきった改革と充実が急務とされている。たとえば、人口千人あたりの大学院進学者の比率をみると、アメリカ七・一人、イギリス二・二人、フランス二・九人(いずれも一九八七年調査)に對し、日本は一九九一年でも

○七人にすぎない。また学部学生に対する院生比率でみると、アメリカ一・五・六％、イギリス三・三・五％、フランス二・七％であるのに対し、日本では大学院生の割合が学部学生の四・八％にすぎないのだから、理・工学部や医・薬系の大学院進学が過半

国際関係、地域研究、実務法学、社会情報システム、経営システム科学などといわれている。しかも、上記の専攻の重要性はより強まるものと思われ、本学の伝統的な transdisciplinary なアプローチによるビジネス・スクールを設立し、広く社会人のリカレント教育のメッカとして増大する院生の欲求を満

う意図からであった。私の念願はさきにあげたようなテーマを中心に学部の枠を越え、斬新なカリキュラムを中心とした transdisciplinary なアプローチによるビジネス・スクールの設立し、広く社会人のリカレント教育のメッカとして増大する院生の欲求を満

たいというところである。功な (社会学部教授)

## BOOK 新刊紹介

名譽教授 谷沢永一著  
「松下幸之助の智慧」  
PHP研究所・二五〇〇円

絶えず日本の将来にむけて積極的な発言、行動を行った松下幸之助その人の実像を探ったのが本書である。彼の著作物の中から重要語録とも言うべき「箇所をピックアップして、それぞれ読みとり方を旨とするコメントをつける」手法で誠に分かり易い。幸之助は努力と実体験に裏打ちされた信念の人でありながら、その語り口は奇をてらわず、あくまで自然体。著者のコメントは、歯に衣着せぬ直言と正論をもって見事なまでに戦後社会の矛盾をつくなど、読後感の爽快さ誠に大。

不況対策としての金利引き下げは政策コストを預金者に転嫁するもの、預金金利の自由化にもかかわらず、暗黙の競争抑制政策により、銀行の経営効率の向上を阻害していること、さらに、預金金利を口で高く、預金金利を口で低く、バブル時の不健全銀行を救済していること、これらは預金者の不当な犠牲の上に成り立っていること等、著者の論

述は説得力と迫力があるだけでなく、爽快である。著者が年金と退職金の利子で生活する無職高齢者を強く意識し、特に、退職金の運用に関して理論と実証に裏打ちされた解りやすい実践指針をも提示している。本書の特徴は一層際立っている。(元木 久)

現代風俗研究会の若き俊才として定評のある「やさしい」のほはじめかた」というオーム社のベストセラーシリーズに待望のCが追加された。研究室などでワークステーションを初めて管理する事になった人を対象にした「Eメール」の入門書と個人用パソコンを買ったがソフトのインストールに手を焼いていた人向けのMS-DOSの入門書など、このシリーズは三上教授の長年にわたるコンピュータの付き合い方のエッセンスが凝縮されており好評を博している。

スーパードキュメントからパソコンまで様々なコンピュータで利用できるC言語は、今や、一世代前のFortran

ととともに、欧州連合の将来を展望する内容となっている。当日の活発な討議も、論点ごとに要約して再現されている。

欧州連合に向けた壮大な試みは、国家と市民の関係、あるいは民族について再考するきっかけを与えるものである。研究者、企業関係者のみならず、学生諸君にも是非一読を勧めたい。

なお、英文の報告書も近く発行される予定である。(法学研究所E.C法研究班 主幹・法学部教授 大和 正史)

今年も多くの学生が学園を後にする。卒業生諸君は、四年前の入学時には予想もなかった厳しい就職活動を体験し、社会の荒波に向かい、今後の活躍とご健闘を祈る。

本号は、卒業生特集号として、ご退職なさる先生方にお別れの言葉を、卒業生に学生生活の思い出を綴って頂いた。それが関大への熱いメッセージである。社会状況の変動に伴い、大学の社会に果たす役割が改めて問われている。大学改革を大学と社会との関わり視点から考えてみることも必要である。関大フォーラムでは、「大学と社会」をテーマに、廣田教授に大学院での社会人教育、元木教授に産学協同について論じて頂いた。今後、議論が展開することを期待する。(高井・松尾)

## 「法とヨーロッパ統合」



## 国際シンポの報告書を刊行

関西大学法学研究所では、一昨年十一月十八日から三日間の報告・討論を収録した報告書がこのほど刊行された。

ECは、一九九二年に市場統合の完成をみて、その後昨年十一月に発効した欧州連合条約のもと、政治・経済統合という次のステップを歩み始めた。しかし、長期化する世界不況と失業増のため、通貨統合の実現などについては悲観論も出始めている。本報告書は、レングEC大使とドゥウオストEC法務総局長の基調講演、およびECの政治経済統合、知的所有権法、競争法、会社法、企業課税法の各セッションから構成され、九二年市場統合の現状と問題点を法制面から総括す

とかColor Basicに代わって最初に学習すべき言語の地位を獲得したといえよう。情報処理センターの所長でもあり、本学で最も多忙な三上教授による陣頭指揮の元で三上研究室の精鋭が土木技術者らしい感性で、Dynamic Book Eを使って、日本語処理環境の設定方法からエディタのインストールおよびCコンパイラの環境設定を含めて、C言語の文法の基礎から応用まで丁寧に引きつけてくれる。

パソコンでCの勉強を始めようと考えている学生諸君にお薦めしたい自習書である。(江澤義典)



編集後記